

内閣官房

内閣情報調査室

2014

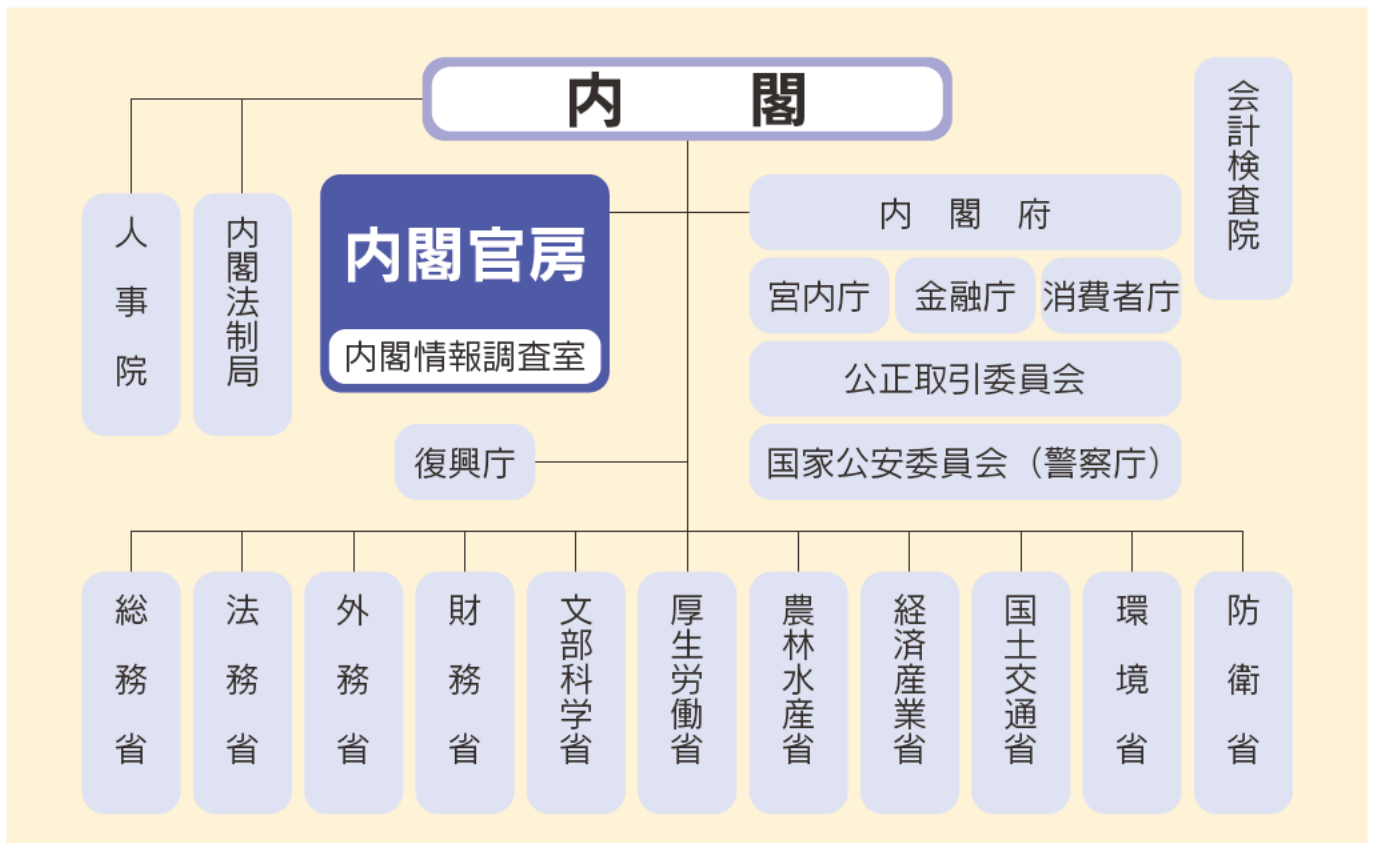


Cabinet Intelligence and Research Office

# CONTENTS

内閣情報調査室を志望する皆さんへ	2
成長する「内調」－歴史と発展－	3
内閣を支える「内閣官房」「内閣情報調査室」	4
「内調」の組織	5
「内調」の役割－総理の「目」「耳」として－	6
情報コミュニティの「要」として	7
緊急事態の発生と初動対処	8
内閣衛星情報センター－情報収集衛星の開発、運用－	9
先輩からのメッセージ	11
キャリアパス－情報の専門家、中核職員として－	18
業務に関するQ & A	19
採用に関するQ & A	21
処遇、給与、福利厚生／採用担当者より	22

## 行政機構図（概要）



# 内閣情報調査室を志望する皆さんへ

From Director of Cabinet Intelligence



内閣情報官として、奔流のごとく押し寄せる情報と格闘する日々であるが、常に一つの考えを念頭に置き対処している。総理に対し、数多の情報の中から何を選択し、そして如何に伝えるか、である。

言うまでもなく、総理は多忙である。常に分刻みで動く総理の貴重な時間を概ね週2回も占め、報告を行う。情報コミュニティ各機関からの情報の英知の結晶を簡潔・明瞭に伝えられるか、報告直前まで自問自答しながら、今日も総理室に向かう。

核・ミサイル開発を継続する北朝鮮、尖閣諸島付近の領海侵入を続ける中国等、我が国を取り巻く内外の情勢は厳しい状況にある。こうした中、先般、国家安全保障会議（NSC）が設置された。NSCが我が国の国家安全保障政策の司令塔として機能するためには、情報部門がより多くの質の高い情報を収集、集約、分析した上で提供し、その結果に基づいて政策決定が行われることが必要である。内閣情報官として、情報部門を代表してNSCに出席し必要な報告を行い、また、総理のみならず官房長官等の政策部門への報告を実施するなど、政策と情報の結節点たるべく努めている。

内閣情報調査室は、内閣官房において「内閣の重要政策に関する情報」の収集・分析等を行うとともに、情報コミュニティの「要」として、各機関との連絡・調整役の任務を担っている。内閣情報調査室が、いかに情報コミュニティ各機関と連携してその英知を結集し、オール・ソース・アナリシスに基づく情報を政策部門に提供できるか、政府における情報機能の強化が進展するにつれ、当室に期待される役割は一層重要性を増している。私の報告も、情報コミュニティからの情報を吟味し、突き合わせ、当室スタッフとともに日々苦悩した成果に基づくものである。

日々の国内外の政治・経済・社会情勢に関する情報の収集、分析。情報コミュニティ各機関との情勢評価に関する協議。関係各国との連携。サイバーインテリジェンスへの対応等新たな課題の出現。我々がやるべきことは尽きない。また、新たに特定秘密保護法に関する事務も所掌することとなっている。

決して、注目を浴びる仕事ではない。

だが、内閣を直接支える任務に使命感を感じる諸君が、内閣情報調査室の一員に加わることを願ってやまない。



内閣情報官 北村 滋

# 成長する「内調」 – 歴史と発展 –

昭和 27 年 4 月 9 日（第 3 次吉田内閣）

**内閣総理大臣官房調査室**（総理府の組織として新設）

昭和 32 年 8 月 1 日（第 1 次岸内閣）

**内閣調査室**（組織変更により内閣官房に）

昭和 61 年 7 月 1 日（第 2 次中曽根内閣）

**内閣情報調査室**

（内閣官房の組織再編により名称変更）

平成 8 年 5 月 11 日（第 1 次橋本内閣）

**内閣情報集約センターを設置**

（緊急な重要情報を 24 時間体制で収集し、内閣総理大臣等へ報告）

平成 13 年 1 月 6 日（第 2 次森内閣）

**内閣情報官を設置**

（中央省庁再編に伴い内閣情報調査室長から格上げ）

平成 13 年 4 月 1 日（第 2 次森内閣）

**内閣衛星情報センターを設置**

（情報収集衛星に係る画像情報の収集・分析）

平成 20 年 4 月 1 日（福田内閣）

**内閣情報分析官を設置**

（特定の地域又は分野に関する特に高度な分析）

**カウンターインテリジェンス・センターを設置**

（外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護）



歴史あるこの建物の一室から  
内調の歩みは始まりました。

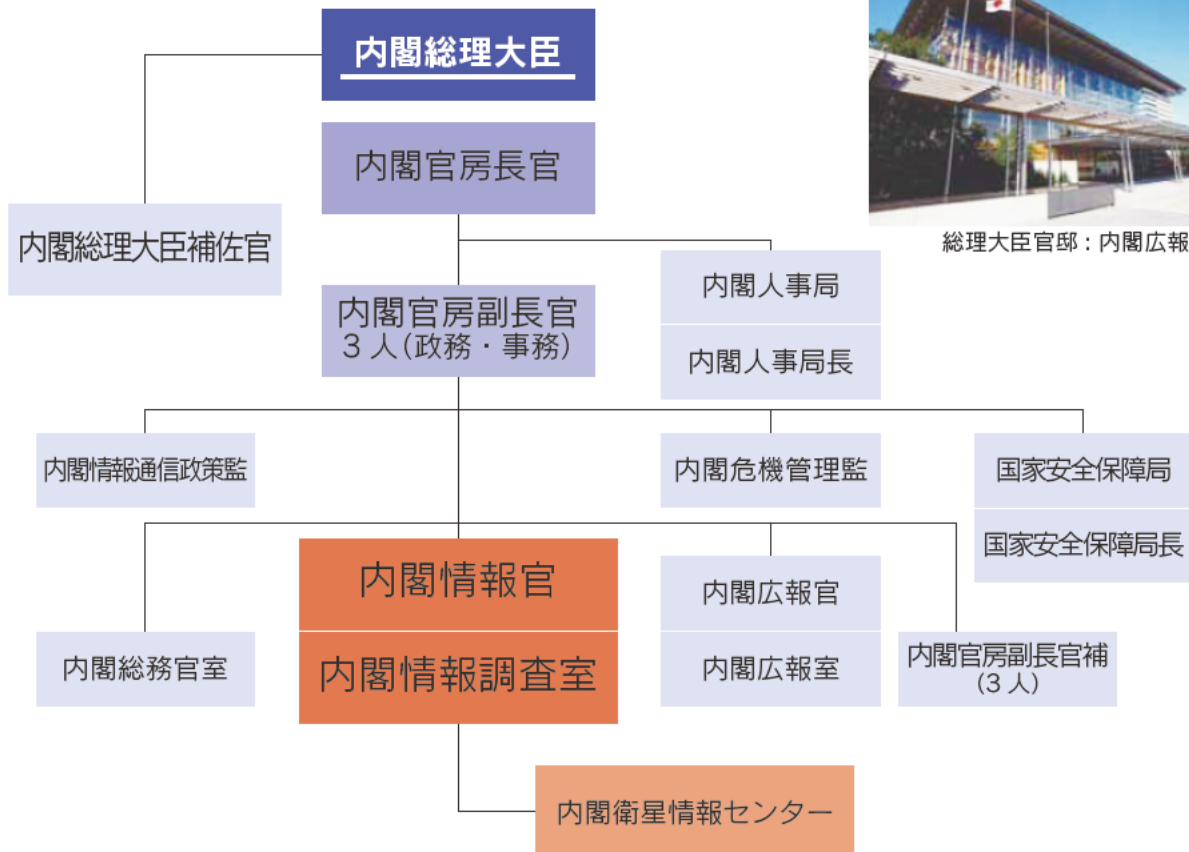
旧総理大臣官邸（現公邸）：内閣広報室提供



# 内閣を支える「内閣官房」「内閣情報調査室」

内閣（内閣総理大臣と国務大臣）に置かれた「内閣官房」は、「閣議事項の整理その他内閣の庶務」「内閣の重要政策に関する基本方針や閣議に係る重要事項等に関する企画、立案、総合調整に関する事務」「**内閣の重要政策に関する情報の収集調査に関する事務**」等をつかさどり、それぞれの事務を、内閣官房副長官補（3人）、内閣広報官、内閣情報官等が掌理しています。（内閣法第12条）

## 内閣官房の組織



## 内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する

### 「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」 (内閣官房組織令第4条)

「内閣の重要政策に関する情報」とは、すなわち、国内外の情勢を正確に把握し、内閣が適時適切に政策を立案、遂行するために必要な情報のことです。その時々政治、経済、社会情勢によって、国の重要課題は変化します。

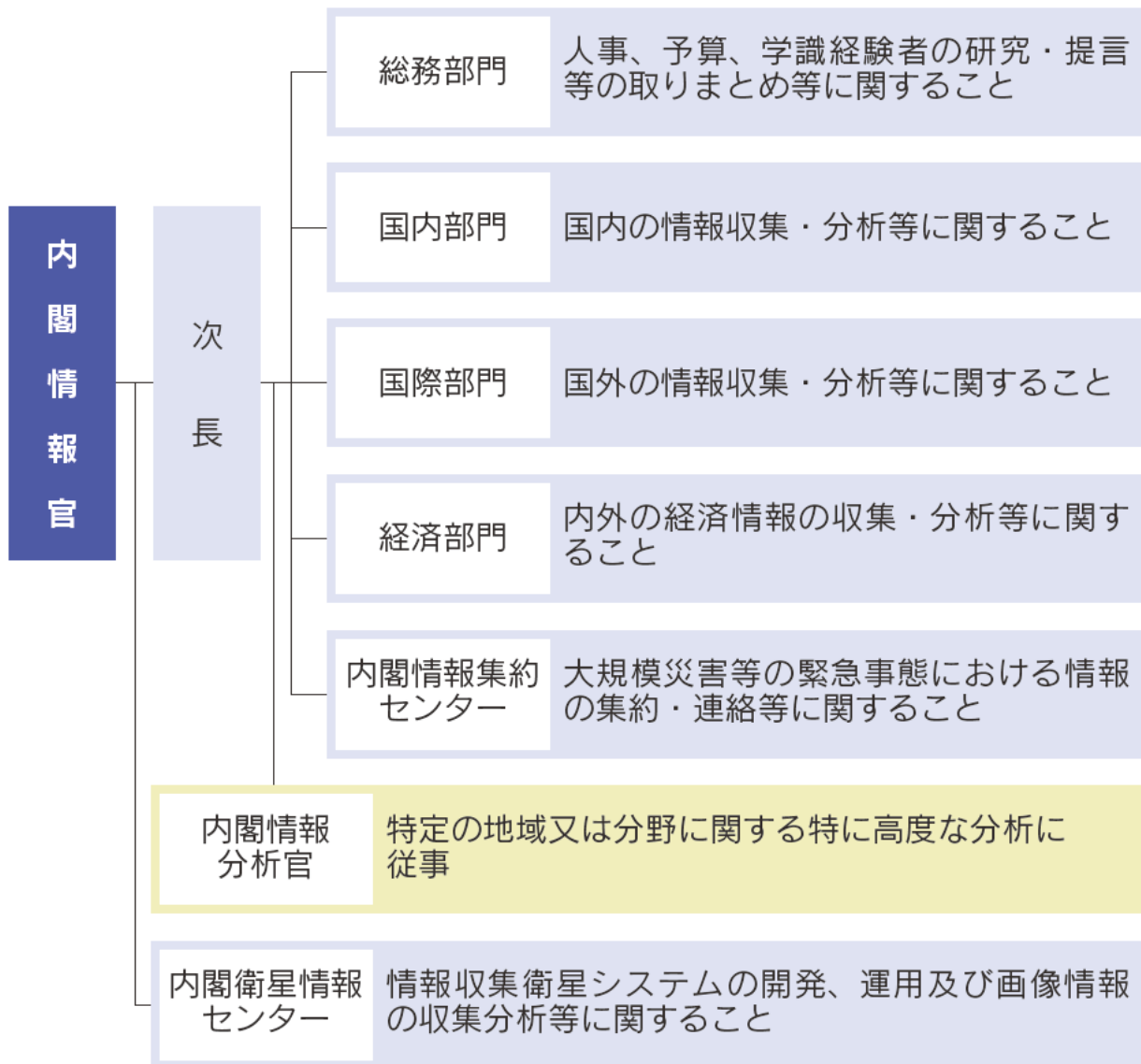
したがって、内調の職員には、「情報に対する鋭敏な感覚と、時機を逸しないで対応するスピード感の養成」が求められます。

関係法令

内閣法第12条、第20条  
内閣官房組織令第1条、第4条、第4条の2

# 「内調」の組織

内閣情報調査室（「内調」）が担当する事務は、内閣情報官の下で、下図のとおり、分担されています。



## カウンターインテリジェンス・センター

(カウンターインテリジェンス機能の強化に関する基本方針の施行に関する連絡調整等)  
…外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護すること

## 内閣情報調査室の職制

内調の職制は、管理職たる内閣審議官、内閣参事官、調査官と、その命を受けて事務を整理する内閣事務官とに大きく分けられます。

課係制をとる他の行政官庁とは異なり、収集、分析した情報を迅速に伝達するという情報業務の特性にかなったフラットかつ柔軟なものとなっています。

# 「内調」の役割 – 総理の「目」「耳」として –

内閣情報調査室の役割は、内閣の重要政策に関する情報を収集、分析して官邸に報告することです。それらの報告は、官邸の政策決定と遂行を支援します。したがって、内閣情報調査室はいわば「総理の『目』『耳』としての役割を担っている」と言えます。

そのために、次のような業務を行っています。

## 情報の収集、分析、評価

官邸直属の情報機関として、官邸の情報関心に合致した各種情報を自ら収集するとともに、情報コミュニティ省庁（内調、警察庁、公安調査庁、外務省及び防衛省等）が収集、分析した情報を集約し、内閣の立場から分析、評価を行っています。

## 総理や官房長官等に対する報告

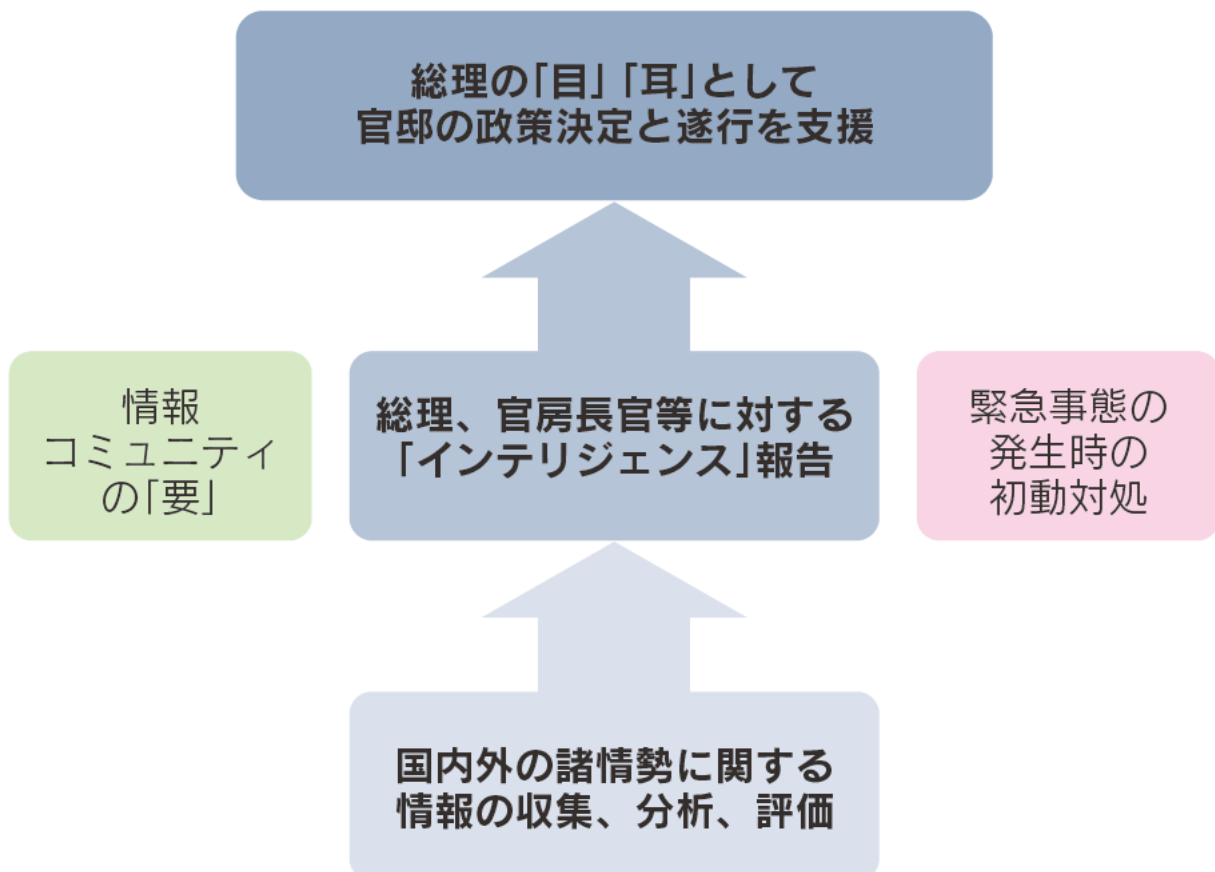
情報の収集、分析によって得られた「情報（インテリジェンス）」を、内閣情報官が、内閣総理大臣、内閣官房長官等（「官邸」）に定例報告を行っています。

また、特に緊急を要する情報については、適時適切に、報告を行っています。

## 緊急事態の発生時の初動対処

大規模災害や我が国の安全が脅かされる事案等緊急事態が発生した場合、あるいはそのおそれのある情報が得られた場合には、内調に情報が集約され、内調から官邸幹部に速報します。

また、内閣に対策本部が設置された場合には、内閣情報官が関係の会議に出席し、情報面から内閣による対応を支えます。



# 情報コミュニティの「要」として

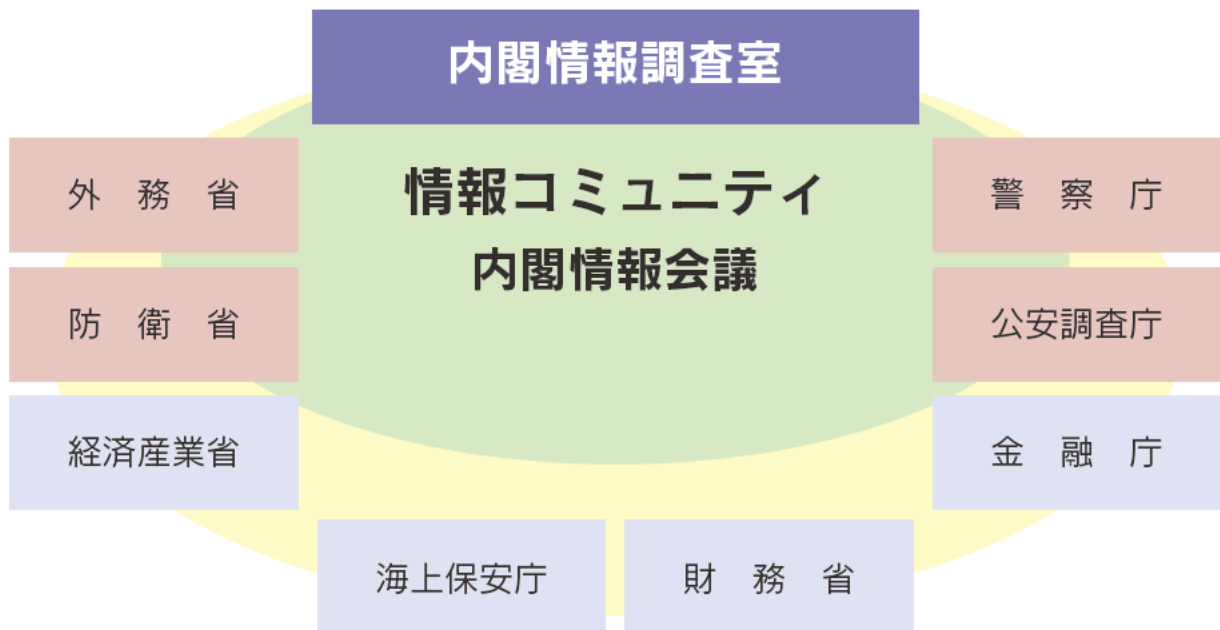
内閣情報調査室は、内閣総理大臣、内閣官房長官、内閣官房副長官等の官邸の政策担当者と、関係省庁との連絡調整を担い、情報コミュニティの要としての役割を果たしています。

そのために、以下の会議の運営を担当しています。

## 内閣情報会議

国家や国民の安全に関わり、内閣の重要政策に関する事象について、官邸と外交・防衛・治安等の情報を担当する省庁が緊密に連携し、情勢を総合的に把握をすることが「内閣情報会議」のねらいです。

議長は内閣官房長官で、内閣官房副長官（政務・事務）、内閣危機管理監、国家安全保障局長、内閣情報官等の内閣官房の最高幹部と、広義の情報コミュニティ（警察庁、金融庁、公安調査庁、外務省、財務省、経済産業省、海上保安庁及び防衛省）の事務次官クラスが構成員になっており、重要情報を共有するとともに総合的な分析、評価を行い、政策の立案に寄与します。原則として年2回開催されます。



(注)「情報コミュニティ」は、従来は、内閣情報調査室、警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省の5省庁で構成されていましたが、平成20年3月の閣議決定により拡大されました。(上図参照)

## 「合同情報会議」、「情報収集衛星推進委員会」、 「情報収集衛星運営委員会」

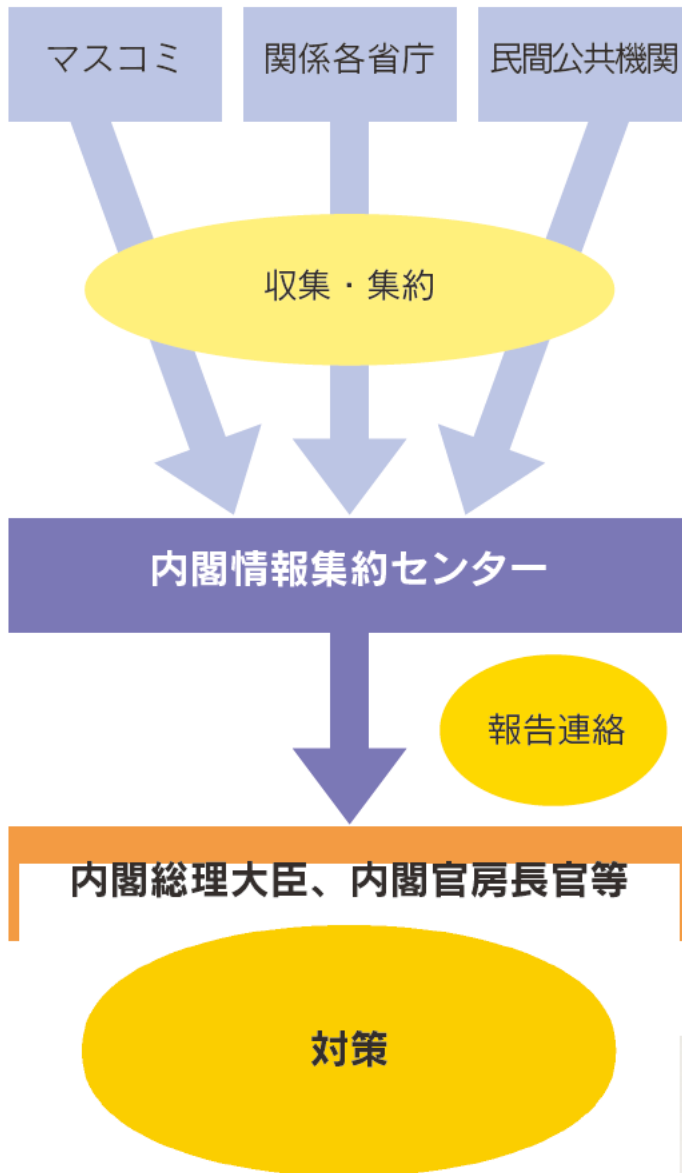
これら会議の長は、内閣官房副長官（事務）が務め、内閣情報官のほか情報関係省庁の局長クラス等が構成員となっており、関係省庁間の情報共有、情報収集衛星の開発・運用のための方針決定等を行っています。

この他にも、内閣情報調査室が中心となって、情報コミュニティ内の様々なレベルで定期又は随時の連絡会議を行い、いわば「オール・ジャパン」で内閣としての政策判断を支援する体制が構築されています。

# 緊急事態の発生と初動対処

当室において、緊急な情報の集約及び連絡を一括して行っているのが内閣情報集約センターです。

内閣情報集約センターは、国内外の重要・緊急な情報を24時間体制で収集、集約し、大規模災害や、大規模テロ等の発生に関する情報を、内閣総理大臣等へ直ちに報告することにより、内閣としての的確な初動対処体制を確立することを目的としています。



各省庁との専用回線、内外の通信社との専用回線等のほか、災害発生時には、防衛省、警察庁等のヘリコプターからの映像をリアルタイムで受信するシステム等があり、緊急事態発生時における政府の情報収集、集約の拠点として重要な役割を果たしています。

内閣広報室提供



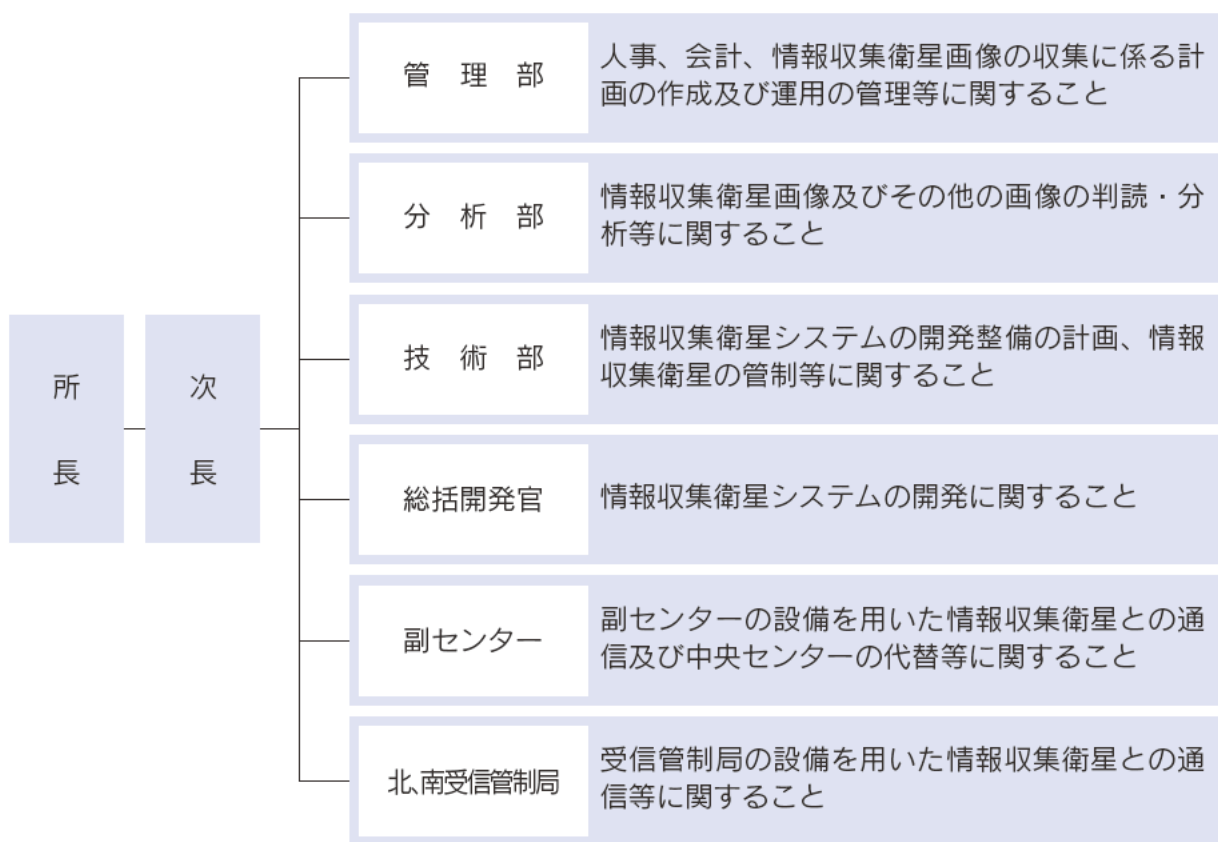


# 内閣衛星情報センター



内閣衛星情報センターは、情報収集衛星の開発、運用を行うとともに、外交・防衛等の安全保障や大規模災害への対応等の危機管理のために必要な情報の収集・分析を行っています。情報収集衛星によって得られた情報は、内閣総理大臣、内閣官房長官等への報告や、情報コミュニティへの報告書の作成・配付を通じて、政府の政策決定や情勢判断に活用されています。

## 内閣衛星情報センターの組織

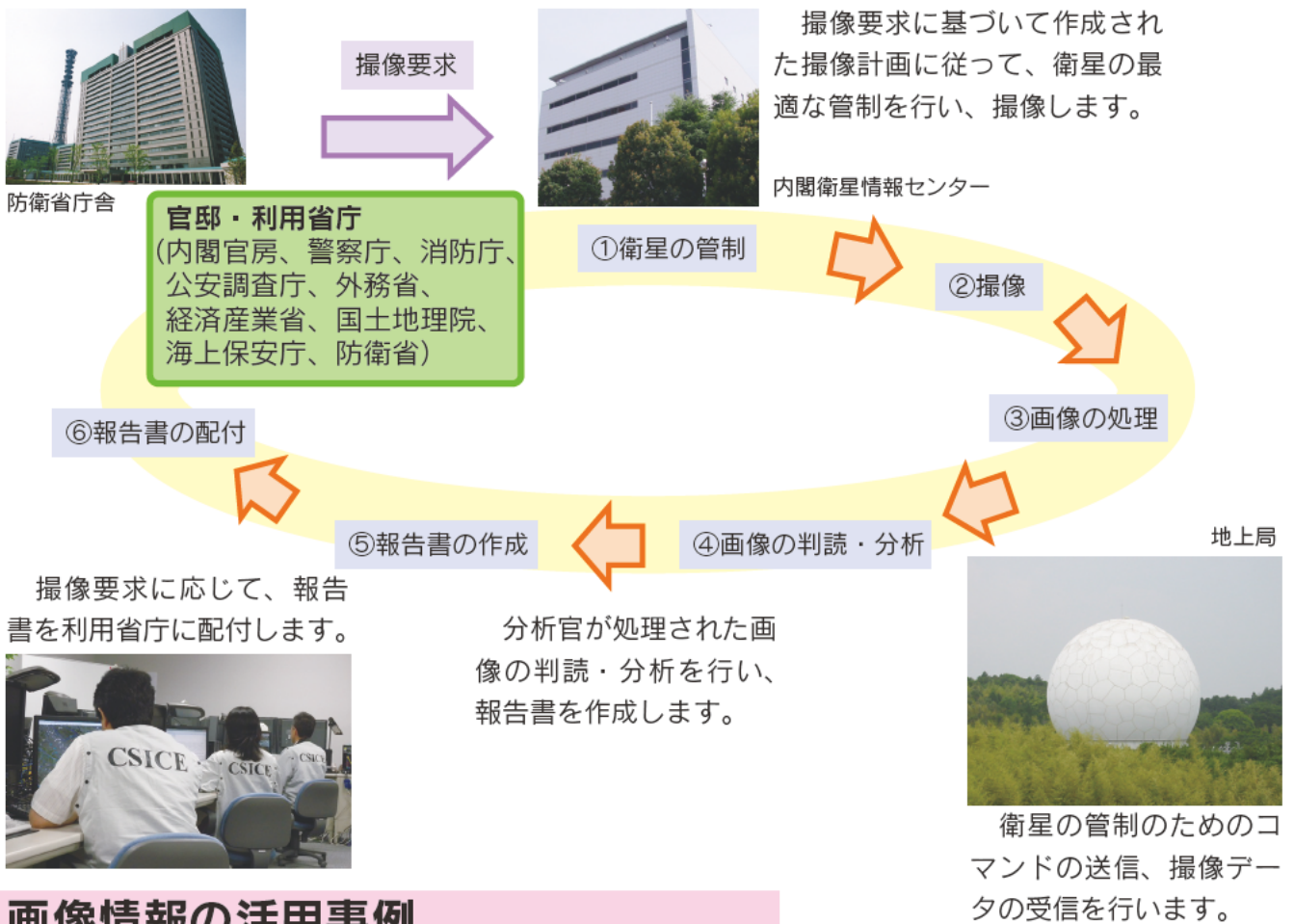


## 情報収集衛星について

- ◆情報収集衛星には、光学衛星とレーダ衛星があります。
  - ◆光学衛星は、地表からの光を検出する衛星です。詳細な分析に適していますが、夜間や悪天候時の撮像には不向きです。
  - ◆レーダ衛星は、電磁波を放射し、反射波を検出する衛星です。夜間や悪天候時の撮像に適しています。
- ◆地球上の特定地点を1日1回以上撮像するために、光学衛星2機、レーダ衛星2機を整備・運用しています。
- ◆この4機体制を維持するとともに、衛星の性能向上を図るため、計画的に研究開発に取り組んでいます。

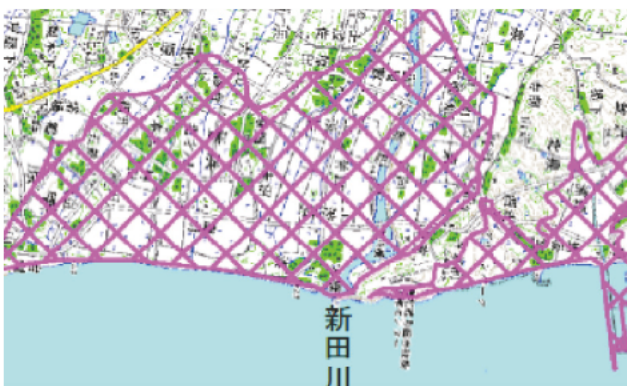


## 内閣衛星情報センターの業務の流れ



## 画像情報の活用事例

- ◆北朝鮮によるミサイル発射等、我が国の安全保障に影響を及ぼす各種事象の把握に活用
- ◆東日本大震災のような大規模災害への対応等の危機管理に活用



東日本大震災被災状況推定地図（一部）

東北地方太平洋沿岸を対象として作成し、官邸、関係省庁及び現地自治体等に配付しました。今後、同様の大規模災害の発生時にも速やかに対応し、公表します。



フィリピン台風被災状況推定地図（一部）



自衛隊による援助活動

被災状況が甚大とされる地域を中心に作成し、フィリピン政府等に提供し、内閣官房のホームページ上で公表しました。また、自衛隊にも提供し、現地での援助活動に貢献しました。

# 先輩からのメッセージ

1

## 平成26年採用（男性）

今年度採用された新人職員。  
総務部門で学識経験者の  
研究・提言等の取りまとめを担当。

## 内調で働き始めて

私は今年の4月に採用されたばかりの新人職員で、毎日ワクワク、ドキドキしながら仕事をしています。以前から情報収集に関する仕事に興味を持っていた私は、内閣情報調査室という名前に惹かれて説明会に参加しました。その説明会で、内調の仕事は、内閣の重要な政策に関する情報の収集・分析等を行い、情報コミュニティの要として、各行政機関との連絡・調整を行うことだと知りました。また、情報収集衛星を活用した情報収集・分析業務や、カウンターインテリジェンスに関する業務など、他省庁にはない役割を担っている点に魅力を感じ、「自分のやりたい仕事はこれだ」と思ったため、内調を訪問しました。面接して下さった職員の方々は、私の質問に対して、丁寧に、わかりやすく説明してくださり、その姿に、ぜひこの職場で一緒に働きたいという気持ちを強くし、当室での勤務を決意しました。

新人の私は、現在、経験豊かな上司や先輩方から仕事のやり方をひとつひとつ丁寧に教えていただきながら、国際政治や経済問題など、様々な分野の有識者からお話を伺い、伺った内容や、その分野に関する重要な情報を報告書としてまとめる仕事をしています。これはまさしく自分がやりたいと思っていた、社会人になっても学び続けることのできる仕事です。普段、ニュースなどで目にしてしている事象に対する見解を、まさにその事象が起きている最中に、その分野の最先端の有識者の方から伺うことができる点に、とてもやりがいを感じています。

内調の仕事は、総理の目、耳の役割を担うとても重要で責任を伴う仕事です。また、自分自身も日々学び、成長することができる職場であり、これも、内調の魅力の一つであると実感しています。

当室に興味のある方はぜひ訪問し、職員の方々に質問をぶつけてみてください。私のように、当室の魅力を強く感じるができると思います。

## 若手職員Q & A



みなさんにより身近な  
若手職員に  
インタビューしてみました！



Q. 当室を選んだ決め手は？

A. 官庁訪問の際、内調は「一緒に働きたいかどうか」を重視した丁寧な面接をしていると感じ、自分もこの先輩方と働きたいと思ったから。

Q. これまでで最も印象に残った仕事は？

A. 日本の安全保障上重大な突発事案が発生した際に、政府首脳を中心とした会議の運営（会議のセッティングや資料作成等）を担当したこと。政府中枢で働いていることを再認識しました。





## 行政機関としての 内調を担う

平成24年採用（男性）

総務部門に勤務し、  
現在は国会対応等調整業務を担当。

2

受験生の皆さん、こんにちは。私は総務部門で勤務している入室3年目の職員です。

私の場合、「内閣情報調査室」と聞いても、当初は漠然としたイメージしかありませんでした。おそらく多くの受験生にとっても同じだろうと思います。しかし、業務説明会で現役の職員の方々の話を伺ううちに、内調は官邸からの距離が非常に近く、様々な部門で幅広い業務を行っている組織であるということを知り、次第に当室に惹かれていきました。

私は今、翌日の国会質疑対応に関する連絡調整、国会議員からの資料要求や他省庁からの協議依頼への対応といった業務を行っています。日々、様々な照会案件の中から当室に関係すると思われるものを選別し、漏れがないよう関係部署に割り振るという「内調の玄関口」を務めています。もちろん、内容によっては自ら資料の作成等を行う必要もあり、こうした連絡調整業務や資料作成等を、限られた時間の中で正確に行わなければならないという緊張感が常にあります。

これらは情報収集や分析といった当室ならではの業務ではありませんが、当室全体の業務内容を把握しておくことが必要であるため、自然と、情報機関としての内調についての理解も深まります。また、議員事務所等とやり取りする機会も多く、国の政治をより身近に感じることができます。忙しいと感じることもありますが、同時に、日々新しい発見があるため、やりがいのある業務です。

当室では、行政機関としての役所的な業務から情報機関としての独自の業務まで、様々な業務に携わることができます。また、他省庁から出向で来られている方も多く、多種多様な価値観に触れることができるのも魅力の一つです。

このパンフレットを手に取り、少しでも当室の業務に興味を持たれたなら、是非当室を訪問してみてください。皆さんと一緒に仕事をできることを楽しみにしております。

Q. 当室を選んだ決め手は？

A. 日本の安全保障を考えたときに、最も大切なのはインテリジェンスだと思ったから。

Q. 仕事をする上で大事にしていることは？

A. できるだけコミュニケーションをとる。失敗を恐れず、分からないことがあればそのままにしないで、質問する。

Q. 当室を選んだ決め手は？

A. 業務内容が幅広く、また、様々な省庁からの出向者が多いため、他省庁で働くよりも広い視野で公務に携われると思ったから。

Q. 働き始める前と後でギャップはありましたか？

A. ありました。働く前に想像していた以上に、内調には公務員らしい仕事と、そうでない、当室独自の仕事が様々にあり、非常に面白い職場だと感じています。



## 先輩からのメッセージ

# 3

### 平成20年採用（女性）

総務部門、国際部門を経て、国内部門にて情報収集・分析を担当。

皆さんは今、自分のPRできる点と各省庁等の魅力的な部分を照らし合わせ、自分に合った職場を探している時期だと思います。

ここでは、私が経験してきた業務を紹介しながら、当室の魅力をPRしてみたいと思います。

私は、採用当初、「情報を守る」業務に携わりました。当室の業務というと「情報の収集、分析、発信」をイメージされると思いますが、それと同時に、情報の漏えいを防ぎ、国益を守ることも国家としては重要です。自分が携わった仕事が新聞等で報道されている様子を見ると、自分の業務を誇りに思えました。

その後、いわゆる「霞ヶ関の仕事」である、国会対応や関係省庁との調整業務を行う部門等に配属され、行政機関や情報コミュニティ内での当室の立場を知りました。

そして現在は、国内部門で、国内の様々な事象にアンテナを立てながら、情報を収集、分析する業務を行っています。とても責任は重く、気の抜けない業務ですが、やりがいのある業務です。

これまでの業務を通じて感じた当室の魅力は、ま

## 内調の魅力PR

ず、官邸に近く、政策部門に直結した業務ができる点です。また、私が経験したように、当室の業務内容は多岐に渡るため、様々な経験を重ね、自分の専門性を見極めた上で、それを高めることができます。

私のような若手職員でも上司や先輩に自分の意見を述べることができ、それを採用していただけてとても風通しの良い職場であることや、業務外のクラブ活動・職員同士の集いにおいても様々な背景を持った方と交流できる、中小企業のような、アットホームで職員の「顔」の見える組織であることも魅力の一つであると感じています。

私が最終的に当室を選んだ理由は、官庁訪問で見た、自らの業務について説明する先輩方の瞳の輝きでした。

実際に当室を訪問し、皆さん自身が、当室の魅力を見つけてくだされれば幸いです。



# 4

### 平成19年採用（女性）

育児休業を取得後、総務部門に復帰。

当室の採用パンフレットを手にとりいただき、ありがとうございます。

私は平成19年に当室に採用され、主に国内部門での勤務を経て、現在は総務部門で情報システムを担当しています。

実は、今回、採用パンフレットを執筆するに当たっては、女性としての、また、産休・育休を経ての観点等を入れることとなっていました。しかし、結論から言って、仕事をする中で、特段そのようなことを意識したことはなく、どのようなことをお伝えしようか悩んでいるのが事実です。子供のいる職員は性別を問わず多くおり、それぞれに事情や考えがあるので、私の例は一例と考えていただきたいのですが、このメッセージが皆さんの人生選択の一助になれば幸いです。

さて、私には現在3歳になる子供がいますが、伴侶の理解もあり、必要な場合には、残業も休日出勤も問題なくできています。当室には、配慮すべきと

## 道を切り拓く

ころは配慮しつつも、こちらが希望し、それに問題がないと判断すれば、その希望に応じた対応をしてくれる柔軟な面があります。子供が犠牲になって可哀想と評されることもあります。子供を言い訳にした中途半端な仕事も、仕事を言い訳にしたいいい加減な子供との向き合い方もしないことが、職場でも、家庭でも、結局は自分が一番心穏やかに過ごせる生き方だと思っています。

実際、当室には、子供のいる女性職員はまだまだ少なく、私が母第一号なのですが、当室の柔軟な風土もあり、特に気負うこともなく働いてこられました。大切なのは先例ではなく、自分がどうしたいかです。先例がないからこそ、自分の選んだ道が答えになります。これは、誰にとっても、どのような場面においても当てはまることではないでしょうか。

当室で、自分の人生を切り拓いてみませんか。皆さんのチャレンジを期待しています。



## 「分析」という業務について

私は現在、外務省への出向や総務部門勤務を経て、国際部門で地域情勢の分析業務にあたっています。

さて、情報の「分析」とは何でしょうか？我々内調は、総理の目・耳として様々な分野の情報を収集していますが、集まった情報の中にはそれだけで「使えるもの」にはならないものも多くあります。例えばある事件が起きたとして、その意味や今後の情勢に与える影響が不透明なものなどです。

そのため、我々は関連する情報を集めつつその事件の意味を考え、今後起こりうることについて予測を立てます。こうした予測に基づき、総理を始めとする政府首脳が予め対応策を練ることができるようになるのです。

この「情報収集→予測」の作業が「分析」と呼ばれる業務なのですが、これは言うほど容易いものではありません。まず、入手できる情報には限りがあり、その質もまちまちです。我々の業務において真に完全な質と量の情報が手に入ることは滅多にありません。

### 平成9年採用（男性）

外務省に出向し、在外勤務を経験。  
現在は国際部門にて  
情報収集・分析を担当。

# 5

そのため、入手した情報の中から信頼性の高いものを選び分け、足りない部分を推測し、様々な可能性の中から最も蓋然性の高い未来予測を導き出す作業が必要になります。

しかしながら、ここで分析を行う担当官の「質」が問題となります。質の悪い分析は当然のことながら間違った予測を生み、その結果、国家の政策を誤らせるという重大な結果を招来しかねません。他方、人間は誰しも能力に限界があり、さらには多かれ少なかれ「偏見」「好み」「期待」といった偏りを持つものです。

分析を歪めるこうした偏りを如何に無くすか、情報の仕事においてこれは永遠のテーマです。何故なら、人間の「認識における不完全性」を完全に除去することはできないからです。

だとすれば、我々にできるのは、自らの限界・偏りを常に自覚し、それを軽減する努力を続けていくことしかないのでしょうか。そんなことを考えながら日々仕事をしています。

## 「知識とセンス」… 旺盛な好奇心のある方へ！

「情報」という言葉は、“行動を起こす際に予め必要とする知識”と言い換えられます。内閣直属の情報機関である当室の責務は、国家が行動を起こす際に必要な情報、「グローバルリスク」に対処するため、時の政権が承知しておかなければならない、幅広く多岐にわたる情報を収集・提供することです。

こうした情報には正確性ととともに速報性が求められます。時宜を逸した情報に価値はありません。正確な情報の入手と提供が早いほど、その後に必要とされる有効な対策が取りやすく、遅くなるにつれて、その選択肢は狭まり、効果が減少するため、“時間との勝負”という側面があります。

現在、私が所属する「内閣情報集約センター」は特にその速報性が求められます。災害発生時における初動対応等、政府にとり失敗の許されない危機管理の一翼を担う他、我が国に直接、間接的に影響を及ぼす可能性のある重要事件・事故や国際紛争、地域情勢、経済動向や自然災害等に対し、内閣として迅速、的確な対応が取れるよう、「インテリジェンス・

### 昭和60年採用（男性）

経済部門等を経験。  
現在は集約センターにて  
危機管理を担当。

# 6

コミュニティ」を構成する各省庁とともに、365日・24時間体制で1秒の隙を作ることもなく、これらの情報を収集・集約しています。

情報の世界では“重大な情報は日常の情報の中にごそ埋もれている”と言われます。「オープン・ソース・インテリジェンス (OSINT)」と呼ばれる、誰もがアクセス可能な情報源からの、溢れるほどの情報の中から、将来、大きな事案に発展する可能性のある端緒を「蕾」の段階で見つけ出すことも重要な職務の一つです。

情報の職責を全うするには、精度を見極めるための幅広い知識と、何を速報すべきかを瞬時に判断するセンスを身につける必要がありますが、こうした技術を習得するにはやはり相応の経験が必要であり、経験を積むには、分野にとらわれず、幅広い知識を得ようとする旺盛な好奇心が必要となります。

“情報の世界”に関心を寄せる好奇心旺盛な皆様と一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

## 先輩からのメッセージ

# 7

### 平成元年採用（男性）

国際・国内部門勤務や外務省出向等、  
多様なキャリアを積み、  
現在は内閣情報分析官の下で勤務。

早いもので、内閣情報調査室に採用されて25年が経ちました。この間、外務省出向、中東欧の在外公館勤務、内閣衛星情報センター勤務など様々な経験をし、楽しいこと、辛いことなどもありましたが、幸いなことに数々の同僚に恵まれて、気がつけばこんなに時間が過ぎていました。

現在は、日々情報の収集・分析でドタバタしている内調の中ではちょっと異色な、じっくりと腰を据えて情報の「分析」に汗を流している内閣情報分析官の下で働いており、ここでは、主に「情報評価書」の作成に携わっています。

内閣総理大臣決定の規則に基づくと、内閣情報分析官（以下、分析官とします）は「内閣情報調査室の事務のうち特定の地域又は分野に関する特に高度な分析に従事する」こととなっています。その、特定地域ないし分野のスペシャリストである分析官が、官邸側との協議に基づきテーマを決定し、情報コミュニティからの情報提供を得て、情報評価書を作成しているのです。

総理、官房長官、官房副長官など、政策決定者である行政の責任者に読んでいただき、国家の政策の助言となるだけでなく、情報コミュニティ官庁にとっても役に立つ評価書を作成しなければならないため、「気を引き締めねばならない」と、日々、自分に言い聞かせ、業務に励んでいます。

## 内調はこんなこともしてます (^\_^)b

昨年、内閣官房に国家安全保障局ができ、また、特定秘密保護法が成立しました。この流れの中、今後ますます情報の収集・分析の重要性が高まっていくと思われれます。そんな時に国家の情報の分析に携わっていただけることをありがたく感じ、それと同時に身が引き締まる思いがしています。皆さんにもどうか同じ感覚を味わっていただき、充実した日々を過ごしていただけたらと思います。

では、4月にお会いしましょう！



# 8

### 平成12年採用（男性）

集約センター、  
国際部門等を経て、  
現在は在外に勤務。

「ちょうど午前4時半を回ったところだ。夜の静寂はモスクから流される大音量のアザーンによって掻き消され、今日も茹だるような一日が始まる…。」

私は、危機管理部門、国際部門、総務部門を経て外務省に出向し、現在は南西アジアにある大使館の一員として情報収集の一端を担っています。

複雑な文化・歴史を有する、この「帝国の墓場」と呼ばれる地で、情報収集を担うことは、常に緊張と隣り合わせです。我が国は、アルジェリアで発生した多数の邦人が巻き込まれたテロ事件を契機に、中東・アフリカ地域の情報収集の重要性を改めて認識し、同地域の情報収集活動の強化を進めています。そのような喫緊の情勢下にあって、「情報」に携わる人間として、当地以上に関心を惹き付けられる地域はあるでしょうか。





## 初心忘るべからず — 常に新たな勉強に取り組む —

私は、昭和61年に内調に入り、8年目に係長級、20年目に補佐級となり、今年の春から管理職として経済部門の調査官を命ぜられました。主に国内部門及び総務部門の業務に長く従事し、途中、総理府（当時）への出向や防衛省防衛研究所の研修を受ける機会にも恵まれましたが、基本的には地道なデスクワーク中心の職場生活を送ってきました。

現在は、管理職としての業務もさることながら、経済情報の収集・分析業務にも従事しますので、経済専門家のお話を伺う機会もかなりあります。

経済紙は昔から愛読していたものの、経済関係業務は初めての経験であり、体系的な知識としては経済学部生以下の知見しかありません。しかし、外部



## 「帝国の墓場」と呼ばれる地で

ここで申し上げなければならないことがあります。各国の情報機関が情報収集に鎬を削っている当地にあっても、ジェームズ・ボンドやイーサン・ハントのような情報マンに遭遇したことはないという事実です（少なくとも私の知る限りでは）。情報の収集・分析とは、実は、日常の地道な作業の積み重ねの上に成り立っていること、また「情報の洪水」から、必要な情報を冷静且つ適時に取捨選択すること、この二つに尽きます。その判断の根拠は、これまで蓄積されてきた各個人の知識や判断力であり、素質であることは言うまでもありません。そして何よりも肝心なのは、人間を真に愛することが出来るかどうかです。もしそれが出来なければ、他人を判断（評価）する資格はありません。

今般、国家安全保障会議（NSC）の設置や特定秘密保護法の成立を受け、我が国の情報機関は、ようやく独り立ちできる段階に入りました。もし貴方が世界を股にかけ、情報収集の最前線に立つことに興味があるようなら、是非、当室の扉を叩いてください。映画の「ゼロ・ダークサーティ」や「アルゴ」とは違う、真の国益に根ざした本当の情報活動を皆さんとともに考え、共に切り拓いていきたいと思えます。

### 昭和61年採用（男性）

国内部門、総理府（当時）  
出向や総務部門勤務を経て、  
現在は経済部門勤務。

# 9

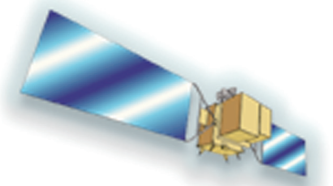
の方からは「内閣官房で経済関係を担当している職員」と見られることから、超特急で相当な勉強をしなければならぬプレッシャーがかかります。

今や情報化社会も急速に進展し、以前であれば有料又は入手困難であったであろうエコノミストを始めとする専門家のレポートも公開情報としてネット上に溢れかえっており、ともすれば消化不良、あるいは適切な判断が難しい状況に陥りがちとなります。

そうした中で、より正しい情報を選択し、エッセンスをまとめ、更なる付加価値をつけて内閣の政策判断に役立つであろう情報に仕上げていくという業務を日々行っていくわけですが、経済に限らず、[新聞・雑誌・論文等を読み込む] → [英語のサイトも含めて根拠となるデータを探し出してくる] → [専門家の話を聞く] → [プレゼンソフトや表計算ソフトを駆使して簡潔かつ分かりやすい資料を作成する]といった作業は、どの分野の担当であっても、当室で情報収集・分析関係の業務に従事する者にとって欠かせない要素となります。

ですから、これから当室を目指そうとする皆さんは、様々なことに興味を持ち続け、どのような仕事であっても自分を成長させていくという意欲を失わないように心がけてください。まずは官庁訪問でその意欲を示していただければ、と期待しております。





### 平成22年採用（女性）

技術部経験を経て、  
現在は分析部業務に従事。

## 宇宙から、国家・ 国民の安全を見守る“IGS”

みなさんは「情報収集衛星」をご存じでしょうか。安全保障及び危機管理のために必要な情報の収集を行う「情報収集衛星：Information Gathering Satellite」、私たちは略して「IGS（アイジーエス）」と呼んでいます。このIGSの開発・運用を行い、衛星画像を使った情報収集をしているのが、内閣情報調査室の一組織である「内閣衛星情報センター」です。

私は、当センターに採用されて5年目になりますが、これまで1～2年の短期間で異動をしながら、複数の部署の仕事を経験してきました。最初の1年間は管理部の総務部門に配属され、公務員としての基本を身につけるとともに、当センターの業務の全体像を学びました。その後は、技術部の開発部門等に配属され、様々な業務の経験を積み重ねています。私は、大学において衛星や航空宇宙の分野を専攻していた訳ではないため、当センターの業務に対応できるか、最初はとても不安でしたが、豊富な専門知識や技術を持つ上司、先輩から日々の業務を通じて仕事のやり方を学んできました。

当センターは平成13年に設置された比較的若い組織ですので、本人のやる気次第で、様々な業務に携わることができる環境が用意されています。これから採用されるみなさんには、私たちと一緒に、多様なキャリアや働き方を自ら提案し、後に続く人たちのためにも道を切り拓いていってほしいと思います。

このメッセージを読んで、当センターに少しでも興味を持っていただけたら、是非、業務説明会などに参加していただき、当センター職員からじっくり話を聞いてみて下さい。外からは見えないことが多い組織ではありますが、中に入ってみると、働いているのは特別な人たちではなく、みな優しい人たちばかりですし、女性が活躍できる職場です。みなさんと一緒にお仕事できる日を、楽しみにしています。

### 平成13年採用（男性）

採用後、分析部及び  
管理部における様々な業務を担当。

## 宇宙や衛星に関わる 仕事をしたい方に

内閣衛星情報センターは、衛星を用いて、外交や防衛等の安全保障、大規模災害等の危機管理のために必要な情報を収集する組織であり、政府機関としては唯一実際に衛星の運用を行っています。そのため、通常の公務員としての業務を行いつつも、主な業務は他省庁とは少し異なります。

「衛星の運用」と一言で言っても、その内容は多岐にわたります。衛星画像の利用省庁である外務省、防衛省や警察庁などからの要望を受け、衛星で地球のどこを撮影するか撮影の計画を行う業務、衛星が定められた軌道を周回するよう管制を行う業務、衛星が撮影した情報を画像処理する業務、画像を判読し分析を行う業務などがあります。私は、衛星の撮影の計画をする業務と画像を判読し分析をする業務を経験してきました。

また、衛星の運用を行いながら、その運用を行うためのシステムを開発する業務にも携わっています。衛星運用は発展段階にある業務です。このシステムを、斬新な発想で多様な要求を取り込んだものとするためには、開発メーカーと何度も調整を行い、一から開発しなければなりません。大変ではありますが、非常に楽しく、やりがいのある業務でもあります。

各業務においては、それぞれ様々な専門的知識が求められますが、それらは研修や実地による学習で身につけることが可能です。衛星運用という業務は非常に珍しく楽しい仕事でもあります。宇宙に興味がある、人工衛星の運用をやってみたい、という方は是非当センターを希望してください。

# キャリアパス – 情報の専門家、中核職員として –

Career Path

内閣情報調査室に採用されると内閣事務官としてキャリアがスタートします。原則として、地方勤務はありませんので、中央で長く働くことになります。

当初の数年間、総務部門に配属され、公務員としての基礎的なことを身につけるとともに、当室の業務の全体像を理解します。この期間は、いわば最初の実践研修（OJT）の期間となります。

その後、適性に配慮して各部門に配属され、それぞれの専門分野を深めていくことになります。

情報担当者として、経験に従って、情報専門官→上席情報専門官→特任情報専門官→調査官、内閣参事官とステップアップしていきます。

また、当室は課係制をとっていませんが、係員→係長→補佐→課長といった職制に当てはめれば、概ね7年で係長級に、20年で補佐級に昇進しています。

情報の専門家、  
内調の中核職員

## 出向、在外勤務 について

専門性を伸ばしたり、行政実務経験を積むために、情報コミュニティ省庁（警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省）、内閣府（国会勤務）等への出向を経験します。

外務省への出向では大使館等で勤務することもあります。

特に在外勤務は、国外で多様な人々と触れ合う貴重な機会として、当室職員のキャリアを形成していく上で非常に有益であるため、積極的に活用しています。

適性に配慮して各部門に配属

総務部門で基礎的業務

新任者研修

採用・  
内閣事務官

## スキルアップ支援の一例

### \* 語学力向上への支援

- ◆ 民間語学学校への通学補助
- ◆ 各種語学研修（警察大学校等への派遣）

### \* 専門性の強化

- ◆ 国内の大学院における調査研究（行政官国内研究員）
- ◆ 外国の研究機関における調査研究（行政官短期在外研究員等）
- ◆ 防衛省主催の安全保障問題に関する研修

### \* 実践研修（OJT）

- ◆ 当室における情報業務では、経験豊かな上司、先輩から、日々の業務を通じて仕事のやり方を学ぶことが重要です。



# 業務に関するQ & A

## 実際にどのような仕事をするのでしょうか？

内閣情報調査室は、内閣の重要政策に関する情報の収集、分析を行っており、収集、分析した情報は、総理をはじめとする官邸や、昨年発足した国家安全保障局等の政策部門へ提供され、様々な政策判断を行う際の基礎となります。

各職員は、タイムリーで質の高い「情報（インテリジェンス）」を集約すべく、鋭意情報の収集、分析を行います。そのためには、直面する重要課題に関して、過去の経緯を調べ、現在の状況を的確に把握し、今後何が起きるかについて、各種の情報の中から有意な情報を選別し、多角的な観点から分析、評価を行い、そのプロダクトとしての「インテリジェンス」をつむぎだすことが求められます。

また、外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護するためにカウンターインテリジェンスの機能の強化に取り組んでいるほか、昨年末成立した「特定秘密の保護に関する法律」の所管部局として、今後、特定秘密の保護に関する政府内の総合調整を担うことにもなります。

## 他にも情報収集を行っている機関がありますが、違いは何ですか？

他の省庁がそれぞれの所掌する分野についての情報収集、分析を行うのに対して、内閣情報調査室は、官邸直属の情報機関として、「内閣の重要政策に関する情報」の収集、分析を所掌しており、特定の政策目標に限定されることなく、幅広い事象を対象として情報の収集、分析を行うことが特徴です。

また、内閣情報調査室は、官邸と情報コミュニティ省庁との間の連絡調整を行い、情報コミュニティの「要」の役割を果たしていることも他省庁との違いの一つです。

## 「特定秘密の保護に関する法律」とは、どのような法律なのでしょうか？

「特定秘密の保護に関する法律」とは、安全保障上の秘匿性の高い情報の漏えいを防止し、国と国民の安全を確保することを目的とするものです。次のページの図がこの法律の主なポイントです。その他の関係資料については、内閣官房のホームページ（<http://www.cas.go.jp/jp/tokuteihimitsu/index.html>）に掲載しています。

この法律が成立したことによって、諸外国との間で情報交換が促進され、我が国の安全保障にとって有益な情報が共有・活用されることとなります。

実際に、本年4月25日に発表された、安倍総理とオバマ大統領による日米共同声明においても、「米国は、日米両国間の政策及びインテリジェンスに係る調整の強化を促進することとなる日本による国家安全保障会議の設置及び情報保全のための法的枠組みの策定を評価する。」と述べられています。

また、これまでより、秘密指定の要件が明確化され、かつ、外部の有識者や国会の関与を含めた管理体制が確立されるため、行政機関における秘密の取扱いに客観性と透明性が高まることにもなります。



情報保全諮問会議：内閣広報室提供

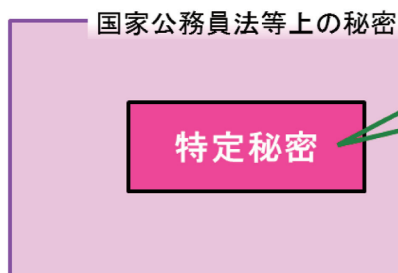
## 内閣情報調査室は、今後、「特定秘密の保護に関する法律」とどのように関わっていくのですか？

「特定秘密の保護に関する法律」は、本年12月13日までの間に施行されることとなっており、現在、内閣情報調査室次長を室長とする「内閣官房特定秘密保護法施行準備室」において、法律の施行に向けた準備作業を行っています。

また、この法律の施行後は、内閣情報官の下、内閣情報調査室が、特定秘密の保護に関する行政各部の施策の統一保持上必要な企画・立案及び総合調整を行うこととなります。

### 特定秘密の保護に関する法律のポイント

#### 特定秘密—大臣等が指定—



#### 特定秘密

安全保障に関する情報で

次のいずれかの事項に該当する情報

- ① 防衛
- ② 外交
- ③ 特定有害活動(スパイ行為等)の防止
- ④ テロリズムの防止

に関するものとして  
法律で列挙する  
事項

のうち、

特段の秘匿の必要性があるもの

- ※ 指定の有効期間は上限5年(更新可能)。通算で30年まで。30年を超える延長には、内閣の承認が必要。暗号や人的情報源等を除き、60年を超える延長は不可。
- ※ 内閣総理大臣は、有識者から意見を聴いた上で、閣議決定により、指定等の運用基準を策定。
- ※ 内閣総理大臣は、必要があれば、指定等の運用について、大臣等に改善を指示。
- ※ 指定等の運用状況は、毎年、有識者に報告するとともに、その意見を付して、国会に報告・国民に公表。

#### 特定秘密の取扱者の制限

適性評価をクリアした者のみが特定秘密の取扱いの業務を行う

#### 行政機関内外で特定秘密を提供し、共有するための仕組みの創設

#### 特定秘密を漏えいした者等を処罰(懲役10年以下等)

- ※ 本法を拡張して解釈して、国民の基本的人権を不当に侵害するようなことがあってはならず、国民の知る権利の保障に資する報道又は取材の自由に十分に配慮しなければならない旨を規定。
- ※ 出版又は報道の業務に従事する者の取材行為については、専ら公益を図る目的を有し、かつ、法令違反又は著しく不当な方法によるものと認められない限りは、これを正当な業務による行為とする旨を規定。

# 採用に関するQ & A

## 採用はどのように決定していますか？

A 面接によって受験者の人柄、能力、将来性等を総合的に評価します。当室の業務内容は多岐にわたります。そのため、必要とされる人物像も多様であり、実際の職員の顔ぶれを見ても多士済済と言えます。

## 職員に求められる資質は何ですか？

A 当室の業務を行うためには、具体的には新聞、テレビ、雑誌、専門誌、インターネット等の様々なメディアからの公開情報を丹念に調べる作業を行う必要があります。そのためには、問題の本質を把握する力、冷静な分析力、歴史的経緯を踏まえた深い知見等が必要となります。

また、文字になっていないような事実や情報を、それを知っている人から教えてもらったり、専門家同士で意見交換をしたりすることも必要となります。そのためには、相手から信頼され、豊かな人間関係を構築する能力も求められます。

さらに、変化する内外の情勢に対応して、組織が有する各種の資産を有効に活用して情報業務を効果的に推進するために、組織マネジメントに関する能力も求められます。

ただし、これらの能力は一朝一夕に身につくものではありませんから、日々の業務での経験を通じて徐々に伸ばさせていくべきものであり、そうした成長プロセス自体を楽しめる人材が求められます。

## これまでの採用実績は？

A 毎年概ね数名規模で採用しています。比較的小規模な組織であり、かつ公務員の数が削減される傾向の中にあって、業務の重要性が認められ、順調に採用を継続しています。本年度も国家公務員一般職（大卒程度）からの採用を予定しています。

## 内閣情報調査室では女性も採用されているのですか？

A もちろんです（下記参照）。最近育休から復帰した方もおり、多くの女性職員が仕事と家庭を両立させながら、活躍しています。

### 採用実績

※（ ）内は女性。表の平成22～23年度はⅡ種、平成24年度～26年度は一般職（大卒程度）からの採用数。内閣衛星情報センターは、技術系「電気・電子・情報」区分からの採用（平成26年度は「電気・電子・情報」「機械」「物理」区分からの採用を予定）。

試験年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度（予定）
行政区分	5人（1人）	5人（0人）	2人（1人）	3人（0人）	3人
技術系	1人（1人）	1人（0人）	1人（0人）	0人（0人）	2人



# 処遇、給与、福利厚生

## －ワーク・ライフ・バランスの重視－

### 【給与】（平成 26 年 4 月 1 日現在）

- ・一般職（大卒程度試験）合格の場合…行政職（一）1 級 25 号俸

本俸月額	172,200 円
地域手当月額（18%）	30,996 円
本府省業務調整手当	3,600 円
合計	206,796 円

- ・ボーナス…年間 3.95 月分（6 月：1.9 月分、12 月：2.05 月分）

その他、通勤手当、超過勤務手当などのほか、民間の賃貸住宅に入居した場合には、家賃額に応じて一定の住居手当が支給されます。

なお、大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。

### 【勤務時間と休暇】

- ・勤務時間…原則として 9 時 30 分から 18 時 15 分
- ・有給休暇…年次休暇は年間 20 日間（4 月採用者は、その年の 12 月まで 15 日間）  
このほか、特別休暇（夏季、結婚、忌引等）等
- ・育児休業…出産、育児と仕事を両立させるために、実際に活用されています。

### 【福利厚生】

- ・共済制度

国家公務員は共済組合（当室の場合は内閣共済組合）に加入することとなり、組合員として、病気、負傷、婚姻、出産などの場合に各種の給付が受けられます。また、各種契約施設（保養所等）を割引料金で利用することができます。「グループ保険制度」（各種保険、団体積立）も利用できます。

- ・健康管理その他

庁舎内に内科と歯科の診療所があるほか、共済組合の直営病院（虎の門病院等）で随時診察が受けられます。また、健康電話相談の設置や定期的な健康診断の実施、人間ドックの斡旋等を行っています。

このほか、当室では、職員同士の親睦を深めるため、野球、フットサル、テニス、ボウリング、プロ野球観戦、ハイキング、町中散策等、各種のサークルがあり、それぞれ活発に活動しています。

## 採用担当者より

当室の今年度の採用は、40 代男性と 20 代女性の 2 人が担当しています。このパンフレットも、オジサンの硬い発想に、女性の柔軟な観点からの分かりやすさを加味して作成しました。

読んでお分かりのように、当室の業務は拡大しており、今後、職員はこれまでなかった新しい業務に携わっていくことになります。そのため、より一層、幅広い知識と能力が必要とされており、変化とニーズに対応できる、「即戦力」となる人材を当室は求めています。と言うと、皆さんは不安に思われたかもしれませんが、大丈夫です。当室は、日々、経験豊富な先輩や上司から学ぶことができる、ベテランも若手も一丸となって仕事に取り組んでいる職場です。

今、このパンフレットを手にしていらっしゃる貴方は、どの省庁をこれから選んでいくべきか悩んでいる真っ最中かと思います。自分の力をぶつけてみたい、色々な仕事にチャレンジしてみたいと思っている方、是非私たちと一緒に仕事をしましょう。我々を助け、我々に鍛えられてください。職員一同、当室への訪問をお待ちしております。

内閣府（本府）庁舎





〒100-8968

東京都千代田区永田町1-6-1

内閣府庁舎 6階

TEL 03(5253)2107 (採用専用)

TEL 03(3581)5083 (直通)

[http://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou\\_index.html](http://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html)

(内閣官房ホームページ→採用情報)

